

順路

鎌倉駅 → (徒歩) → 荏柄天神社 → 鎌倉宮 → 護良親王の墓 → 永福寺跡 → 瑞泉寺
→ (昼食) → 覚園寺 → (鶴岡八幡宮) → (小町通り散策) → 鎌倉駅

荏柄天神社

祭神は菅原 道真、八雲大神(須佐男尊)。鎌倉でも古い神社で、創建は1104年(長治元)。

にわかにかき曇ってきた天から天神画像が降ってきたのに人々は恐れ、その場所に社殿を造営し、その画像を納めたと伝えられる。京都の北野天満宮、福岡の太宰府天満宮とともに日本三大天神の一つ。本殿は、鎌倉最古の木造建築(国重文)。境内には100本以上の梅の木が植えられている。本殿に向かって左手にある梅は、「古代青軸」と呼ばれ、花の中心が青みがかっている。右手には紅梅が植えられている。入口右わきにある神木の大イチョウは、創建当時のものといわれ、鶴岡八幡宮の大イチョウが倒れた今は、鎌倉一番の大木となった。満画家清水崑の「かっぱ筆塚」、横山隆一ら漫画家154人の漫画で飾られている「絵筆塚」がある。

鎌倉宮(大塔宮) 拝観料 300円。

祭神は大塔宮護良親王。1869年(明治2)、明治天皇の勅命により創建。鎌倉宮の名も天皇自らつけられた。護良親王は、後醍醐天皇の第3皇子で鎌倉幕府打倒に貢献し、建武の新政では征夷大將軍となったが、足利尊氏と対立して捕えられ、鎌倉に流された。相模守として鎌倉の実権を握っていた足利尊氏の弟である直義は、鎌倉宮のあたりにあったといわれる東光寺に護良親王を幽閉した。1335年(建武2)、北条高時の子時行が鎌倉幕府復活を図って挙兵し(中先代の乱)、足利忠義を武蔵で破った。直義は鎌倉から逃げのびる際に、家来の淵辺義博に命じて親王を殺させた。社殿のうしろには、護良親王を押し込めたという土牢、淵辺義博が親王の首を捨てたという御構(御首塚)、明治天皇ゆかりの「五ヶ条の御誓文」「教育勅語」の碑などがある。宝物殿には、護良親王にゆかりの品、護良親王座像、土牢の護良親王の図などが陳列されている。10月8、9日には、境内で鎌倉薪能が行われる。

護良親王の墓

太平記によると淵辺義博は、足利直義の命令で護良親王を殺したが、その首がまるで生きているような人の目をしているので、「主人には見せぬほうがよい」と考え、東光寺裏の藪に投げ捨てて逃げたとある。理知光寺の住職がこれを聞いて、この地に埋葬したという。

理知光寺は、明治初年に廃寺となり、今は寺の面影もないが、木々に囲まれた急な石段を山頂へと170段ほどのぼりつめると、石垣に囲まれた中に護良親王の墓がある。

ここは、宮内庁の管理するところとなっている。

永福寺跡(国指定史跡)

1189年(文治5)、源頼朝は欧州遠征で平泉の藤原泰衡を討って、奥州を支配下に置いた。この

際に目にした平泉の中尊寺、毛越寺を模して頼朝が造営したのが現在の二階堂(鎌倉宮裏手)にあった永福寺といわれる。造営の背景には、藤原一族、あるいは弟の源義経の鎮魂、慰霊と自らの権勢を示すねらいがあったとされる。1191年(建久2)着工、良く年にはほぼ完成。本堂の二階堂や阿弥陀堂、薬師堂を中心に、池を配した浄土庭園を備えた壮大な寺院であったことが1984～1996年の発掘調査からうかがえる。1280年(弘安3)、1310年(永仁8)の火災などでは復興したが、1405年(応永12)の火災以後復興の記録がなく、室町時代の後半に廃寺となっただけらしい。鎌倉時代の「海道記」などによれば、本堂は二重軒の瓦葺で、両翼を張った姿は宇治の平等院に似ていたと言われている。二階堂というこのあたりの地名は、ここから生まれた。池を再現し、史跡公園とする計画がある。

ずいせんじ 瑞泉寺 臨済宗円覚寺派。山号は錦屏山。開山は夢窓疎石(国師)。入山料200円。

1327年(嘉暦2)二階堂道蘊がこの地に瑞泉院を建立。その後、南北朝の時代に最初の鎌倉公方となった足利基氏は、夢窓疎石に帰依して瑞泉寺として改め、1350年(貞和6)に亡くなると、瑞泉寺に葬られた。以後鎌倉公方代々の菩提寺として塔頭も10を超え、鎌倉五山に次ぐ関東十刹*の一位の格式を誇った。後醍醐天皇や足利尊氏も帰依した夢窓疎石は、瑞泉寺の作庭にも力を注いだ。岩盤を削りだした岩の庭は、本堂裏に発掘復元され、国の名勝に指定されている。この庭は、書院庭園の起源ともなった。また、夢窓疎石は庭園のうしろの山の頂に、編界一覽亭を建て、鎌倉五山の僧がしばしば集まって漢詩・漢文を作ったりして、五山文学の一中心ともなった。

本堂には中央に釈迦如来像、左側に徳川光圀寄進の千手観音像、右側に夢窓疎石像が祀られている(非公開)。その他、吉田松陰留蹟碑、どこも苦地蔵、裏山には、「お塔やぐら」、「瑞泉寺やくら群」があり、境内は国の史跡に指定されている。瑞泉寺は、花の名所としても知られ、12月下旬から1月上旬には水仙、2月上旬から3月上旬には梅がここかしこに美しく咲く。本堂前には市天然記念物のオウバイが黄色い花をつける。

* 関東十刹：室町時代に定められた臨済宗のお寺の格。五山の次に位置付けられている。当初、京都と関東が一緒になっていたが、その後、京都中心と、関東だけに分かれた。

関東の十ヶ寺で、現在残っているのは、瑞泉寺と大慶寺(鎌倉の寺分)だけである

かくおんじ 覚園寺 真言宗泉涌寺派。山号は鷲峰山。開山は智海心慧。入山料500円。

自由拝観、写真撮影は不許可。拝観は、時間ごとに区切って、覚園寺の案内人がつく。

1218年(建保6)に第2代執権北条義時が建立した大倉薬師堂をもとに、1296年(永仁4)第9代執権北条貞時が、再び元寇(蒙古襲来)が起こらぬことを祈り、寺に改めた。その後、建武の新政の時に、後醍醐天皇の勅願寺とされ、室町時代は足利氏の祈願所として栄えた。

境内は、愛染堂、薬師堂(県重文)、江戸時代中期の農家で鎌倉市手広から移築した旧内海住宅(県重文)、石仏を祀ったやぐら、地藏堂の順に案内される。

茅葺の薬師堂は、元禄年間(1688～1704年)につくりなおしたと言われているが、材料の一部に

は室町時代のものも使っており、天井の梁には、1354 年(文和^{ぶんな}3)にこのお堂を修理したときに足利尊氏を書いたという棟札がある。

本尊は薬師三尊像(国重文)で、三尊とも寄木造の玉眼入りで、鎌倉有数の大きな像である。

堂内左右には、薬師如来を守護する十二神将軍があり、さらに堂の右奥には、理知光寺の本尊だったという韜^{たう}阿^あ弥^み陀^だと呼ばれる阿弥陀如来像がある。地藏堂には、黒地藏と呼ばれる鎌倉時代に作られた蔵菩薩像(国重文)がある。この地藏は、地獄を回った罪人が責められているの見て、じっとしていることができず、自分が地獄の番人に代わって火をたき、罪人の苦しみを少しでも軽くするようにしたために火を体に受けて黒くすすけているのだといわれている。

毎年 8 月 10 日午前の零時からの「黒地藏縁日」は、鎌倉の夏を代表する宗教行事で多くの参拝者が訪れる。薬師堂うしろの山際には、鎌倉十井^{*}の一つの「棟立^{むねたて}ノ井」があるが、非公開。

* 鎌倉^{かまくら} 十^{じゅう} 井^{せい}：鎌倉は古来より水に恵まれない土地であったため、質のよい水が湧きだす井戸は貴重な水源であった。十井とは、水質も良く美味で、伝説やいわれが残る代表的な井戸のこと。江戸時代に鎌倉遊覧が盛んになり、名所旧跡を名数を使って紹介したのが始まりといわれる。棟立ノ井の他に、泉^{いずみ}ノ井、扇^{おおぎ}ノ井、甘露^{かんろ}ノ井、鉄^{くろがね}ノ井、底拔^{そこぬ}ノ井、銚子^{ちようし}ノ井、瓶^{つるべ}ノ井、星ノ井、六角ノ井がある。

参考資料

鎌倉観光文化検定公式テキストブック(鎌倉春秋社)

かまくら子ども風土記(鎌倉市教育委員会)